

## News & Topics

### 共生社会の実現に向けて 第3次京都式オレンジプラン

京都府の認知症総合対策推進計画「第3次京都式オレンジプラン」がこのほどまとまり、キックオフイベント「共生社会の実現に向けたきょうと認知症まちづくりフォーラム」が3月10日、京都府医師会館(中京区)で開かれ、会場とオンラインで市民ら190人が参加した。

**本人の意思を尊重 地域で暮らし続けられる社会を**

府や京都市、医療・介護団体などで行く京都地域包括ケア推進機構は、2013年に全国初となる認知症総合対策推進計画(京都式オレンジプラン)を策定。18年に改定し、今年度第3次プランをスタートさせた。

計画では、望む社会の姿を「本人の意思が尊重され、住み慣れた地域で暮らし続けられる社会」とし、「10のアイメッセージ」を掲げる。改定にあたり、本人、家族、支援者がメッセージの達成状況を評価し、府内12カ所での本人、家族ミーティングを行い、声を反映した。

**本人の声を起点に 地域とのつながりを**

改定の座長を務めた府医師会の認知症対策担当理事・西村幸秀さんがポイント解説。検討時に設けた3つのテーマについて、認知症の本人・家族、専門職や支援者、企業らが意見を交わした。

若年性認知症の本人として講演やSNSで発信する京都府認知症大使の下坂厚さんは、普及啓発と本人発信について「発信によってつながりが生まれ、岩倉地域



上/オレンジプランについて語り合う参加者  
下/京都府認知症大使のトークセッション

包括支援センターの松本恵生さんは「認知症サポーター養成講座などで本人の声を聞く機会を設けることが正しい理解につながる」と訴えた。認知症バリアフリー社会の実現に向けてというテーマでは、セブイレブンの京都山科百々町の清水美奈子さんが「お客さんの困り事に寄り添い、地域で愛されることが企業のロイヤリティ向上につながる」と利点を強調。京都市老人福祉施設協議会の河本歩美さんは「本人のやりたいことを実現するため、地域でつながりを持つことが必要」と呼び掛けた。医療・介護サービスに望むことでは、認知症本人の幸陶一さんの娘・暁子さんが「本人のやりたいことに耳を傾け、行き届いたサービスを」と話した。

フォーラムでは、地域包括支援センターが地元住民を巻き込む取り組みや「認知症の人と家族の会」の活動、デイサービスでの世代を超えた交流や高齢化が進む地域でコンビニエンスストアが取り組む買い物支援、府若年性認知症支援コーディネーターによる本人交流活動などの事例も発表された。

### コラム 第3次京都式オレンジプランがスタート

京都府医師会 認知症対策担当理事 西村幸秀先生



西村幸秀 京都府医師会 認知症対策担当理事

「新京都式オレンジプラン」が2024年3月に改定され、「第3次京都式オレンジプラン」がスタートしました。認知症の人とその家族が望む「10のアイメッセージ」をかなえるためのオレンジロードをつなげ、「認知症とともに歩む本人の意思が尊重され、住み慣れた地域で暮らし続けられる社会」を目指しています。

初代プランが策定されたのは13年9月ですから、私も10年以上プランとともに歩んできたことに感慨深いです。さて、当初は国の施策に先駆け

て、「認知症の人とその家族の視点を重視する」ことを京都独自のプランで明文化し、さまざまな取り組みを進めていきました。ところが、わが国において20年1月に新型コロナウイルス感染症が確認され、いわゆる「コロナ禍」によって、認知症を持つ本人とその家族の生活が一変しました。感染拡大や重症化、また外出禁止などで、ストレス過多や環境の変化で症状が悪化したり、と世界的な想定外の状況に医療・介護・福祉の現場も混乱させたいと思います。

**地域情報**  
「だれでも、どこでも」  
つながれる、場のか・出会いの力  
●認知症フォーラム in 宇治

宇治市の認知症への取り組みについて考える「認知症フォーラム in 宇治」が3月20日、同市生涯学習センターで開かれ、市民ら150人が参加し、市同市で取り組む認知症支援ネットワーク「れもねいど」で、認知症の人と家族、学生、企業、住民らが参加するグループミーティングの取り組みについて、参加する京都文教大学の平尾和之教授は、「場



体験を語る藤田さんら

の力・出会いの力によって認知症の疾病観が変わる「プロセスが重要」とし、その場に「だれでも、どこでも」つながり、本人、家族に寄り添い支援する「リンクワーカーの充実」が課題だと報告した。

「課題だ」と報告した。ものづくりを通じた社会参加を支援する「作業工房(宇治市)」で活動する、認知症本人の藤田佳見さん、河田正裕さん、吉田哲久さんによるリレートークでは、活動の喜びと本人同士の交流が語られ、診断後、社会参加に至る3人の軌跡を紹介。医師の森後夫さんは「れもねいど」は認知症基本法を先取りしている」と語りかけた。

**Voice**  
認知症のこれから  
本人と家族で考える、幸せ  
NHK厚生文化事業団

2023年、新薬承認や認知症基本法の成立で、認知症を取り巻く環境が変わってきている。認知症の本人と家族、医療者が展覧会を語るフォーラムが3月3日、みやこめつせ(左京区)で開かれ約300人が参加した。NHK厚生文化事業団などが主催した。

基調講演では、京都大学の木下彩葉教授が代表的な症状や治療の現状、早期発見に向けた生活での心掛けを解説した。

パネルディスカッションでは、精神科医の松本一生さんと「認知症の人と家族の会」代表理事、鎌田さんが出演。松本さんは、新薬に過度な期待を持つべきではないとしつつ、「薬の開発など今後の可能性につながる。これがスタート」と語った。鎌田さんは「基本法成立は認知症への理解が進む追い風。認知症観を変え自分事と捉え備えてほしい」と呼び掛けた。府内在住の認知症の本人・家族らも登壇し、宇治市の伊藤藤彦さんは「二人で考えず、対話が重要」と話した。



パネルディスカッションの様子

### 企業・団体の取り組み

#### 成年後見センター・リーガルサポート京都支部

認知症などで判断能力の低下した方の権利を守り、より自分らしく生きることを支援する成年後見制度。国内最大の専門職後見人団体・リーガルサポート京都支部の角倉弘高さんに取り組みを聞いた。

**国内最大の専門職後見人団体**

公益社団法人成年後見センター・リーガルサポートは、1999年に全国の司法書士による社団法人として設立されました。高齢者、障害者等が自らの意思に基づき安心して日常生活を送ることができるよう支援し、高齢者や障害者等の権利の擁護および福祉の増進に寄与することを目的としています。

リーガルサポートは国内最大の専門職後見人団体です。所定の研

リーガルサポート京都支部の実施する相談会

- 1. 成年後見相談**  
【予約制】予約電話：075-255-2578  
毎週 土曜日 10:00~12:00 (祝日、年末年始を除く)
- 2. 成年後見無料電話相談 (予約不要)**  
毎週 水曜日 14:00~16:00 (祝日、年末年始を除く)  
相談電話：075-223-3301  
(上記の時間帯のみつながります)



司法書士の角倉弘高さん、10件以上の後見人を務める

成年後見制度には大きく分けて、判断能力が衰えてから利用する「法定後見制度」と、将来の判断能力が衰えた時に備える「任意後見制度」があります。支援内容は画一的でなく十人十色。私たちは、法定後見制度にあつては、制度を利用するご本人の残存能力やご意思によって支援内容を細かく検討しますし、任意後見制度ではかなり自由に支援内容を決められるため、利用者一人一人の希望やライフプランを叶えること

【お問い合わせ】「オレンジ」事務局(京都新聞COM内) Tel.075-241-6172(平日10:00~17:00) e-mail: orange@mb.kyoto-np.co.jp  
主催/京都新聞 後援/京都府、京都市、京都地域包括ケア推進機構、認知症の人と家族の会、京都府医師会、京都府歯科医師会、京都府看護協会、京都府薬剤師会、京都私立病院協会、京都府社会福祉協議会、京都市社会福祉協議会、京都府地域包括・在宅介護支援センター協議会、京都市地域包括支援センター・在宅介護支援センター連絡協議会、京都社会福祉士会、京都府介護支援専門員会、京都府介護福祉士会、京都府老人福祉施設協議会、京都市老人福祉施設協議会、京都地域密着型サービス事業所協議会、京都弁護士会、京都司法書士会、成年後見センター・リーガルサポート京都支部、生命保険協会京都府協会 企画協力/関店

私たちは、京都新聞認知症啓発キャンペーン「オレンジ」を応援しています。

京都司法書士会、KYOTO COP、社会福祉法人 京都福祉サービス協会、佛教大学、公益社団法人 成年後見センター・リーガルサポート京都支部、京都エレベータ株式会社、京都信用金庫、京都中央信用金庫、京都文教大学 Kyoto Bunkyo University、住友生命 Vitality、SOMPOひまわり生命、FUJI HOMES Building Better Living Environments、三井住友信託銀行 SUMITOMO MITSUI TRUST BANK、ゆう薬局